

## 5. 京都府立東舞鶴高校連携授業

山蔭 晴人

### 1. 概要

京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室では、2024 年 9 月、10 月に京都府立東舞鶴高校を訪問し、同校 2 年生の「未来まちづくり探求」の授業内で、舞鶴市内を写した古写真を使用した連携授業を実施した。なお、この授業は京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「京都府北部の MALUI・高大連携による文化資源を活かした地域づくり」（研究代表：東昇）の一環でおこなわれたものである。

調査日程 2024 年 9 月 24 日、10 月 15 日

調査参加者 東昇、池田さなえ（以上教員）、渡邊幸奈（博士前期課程）、小原万侑、小島慧音、島村朱音、渡部凌空（以上 4 回生）、山蔭晴人（3 回生）、上武恒介、田又春哉、若山阿美（以上 2 回生）

### 2. 内容

授業の実施に先立ち、調査参加者は授業で使用する予定の写真の中から担当するものを選び、その詳細を調査したうえで、生徒に対してどのような内容の連携授業をおこなうか考えた。使用する写真は高校生と大学生が持ち寄った写真の中から選ばれたものである。

2024 年 9 月 24 日の初回授業は、高校生を対象に文化情報学研究室や歴史の調査方法についての説明をおこなった。その後、高校生は事前に決められた班ごとに分かれ、各班に調査参加者が 1 名ずつ加わる形で授業を進めた。授業では高校生が中心となり、写真から気づいた点や特徴などを見つけ出し、それらを「まるまる舞鶴」や現地調査、関連本などで調べることを課題として提示した。10 月 15 日の連携授業では、高校生が調査結果をもとに作成したレポートを各自発表し、理解を深める機会とした。今回は初の試みとして発表の最後に自身の内容にもとづいたクイズを作成し、高校生の興味を引く工夫を取り入れた。



写真 1 文化情報学研究室の説明の様子



写真 2 課題に取り組む様子

#### 編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第 11 号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒 606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2025 年 3 月 31 日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒 606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---